

平湯川砂防樹林帯導流堤工事における安全対策について

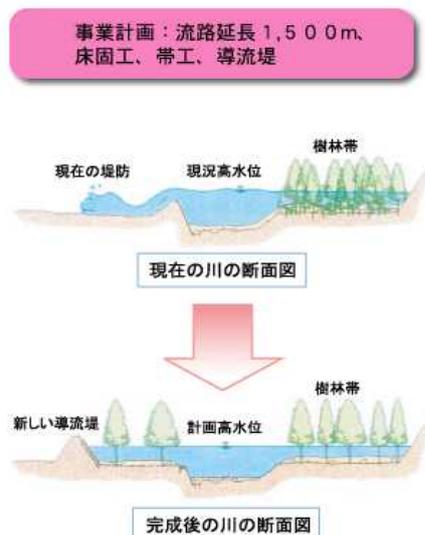
新栄建設㈱ 平湯川砂防樹林帯導流堤工事
 (工期：平成19年9月11日～平成20年2月28日)
 現場代理人 ○小島 稔
 監理技術者 酒井 勉



1. はじめに

砂防樹林帯は、川の中にある樹木の力により、洪水の時に土砂が流れないように、また上流から流れてきた土砂を止めることを目的として計画されています。

現在の堤防では、大洪水の際には土砂が堆積すると、河川から溢れてしまいます。そこで、現在の堤防の背後に新しい“導流堤”を建設し、河幅を広げることによって、大洪水時に土砂が堆積しても氾濫することが無くなり、地域住民や観光客の安全が図られます。



平湯川砂防樹林帯計画箇所

本工事は、この“導流堤”を施工する工事です。

本工事を施工するにあたり行っている安全対策について述べたいと思います。

[工事概要]

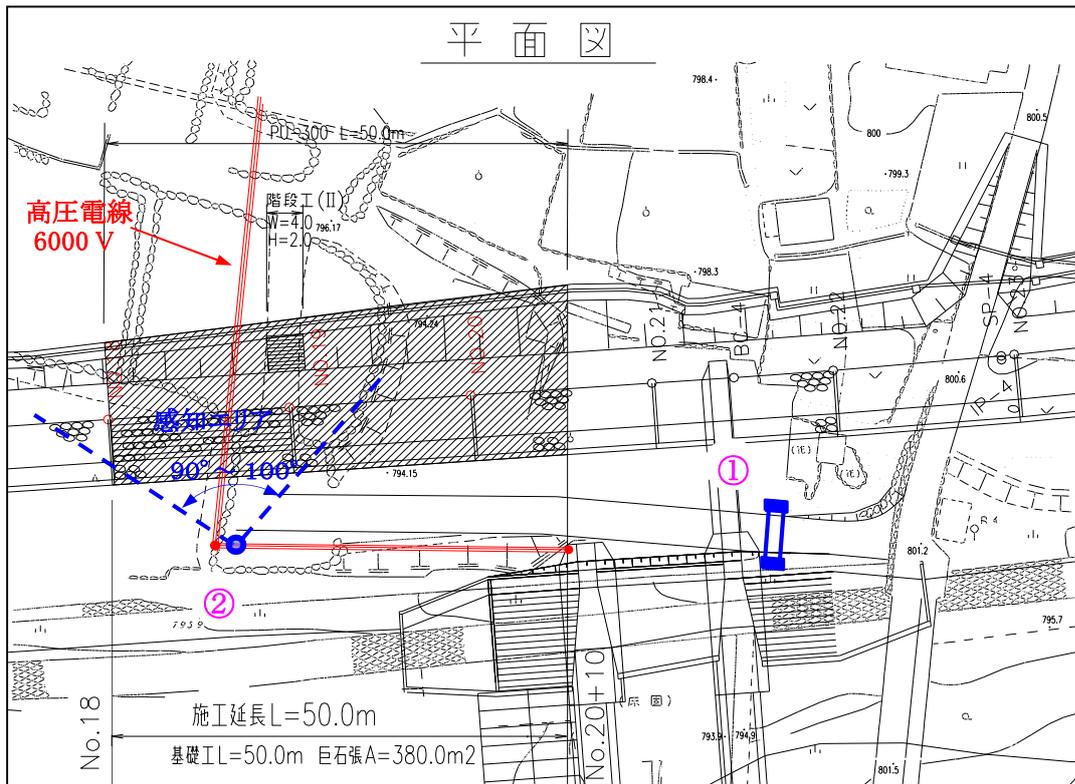
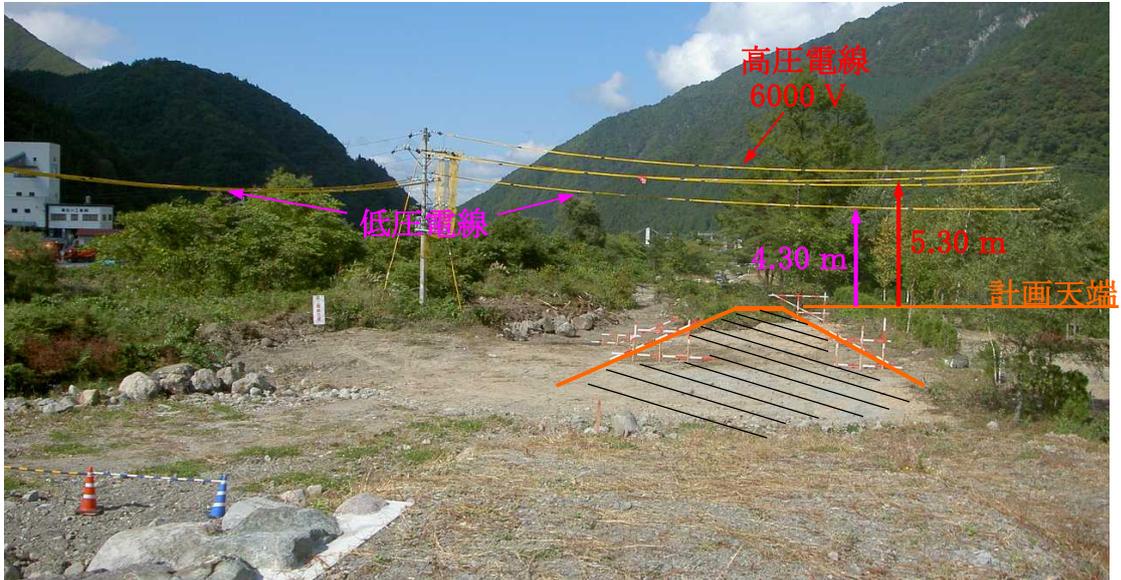
流路

砂防土工	掘削工		510 m ³
	埋戻し工	締固め有り	20 m ³
導流堤防護岸工		締固め無し	1,800 m ³
	盛土工	締固め有り	4,000 m ³
	基礎工	コンクリート	105 m ³
	巨石張工	購入	891 m ²
		現地採取	500 m ²
	階段工	コンクリート	1 箇所
	丸太階段		2 箇所
水路工	プレキャストU型水路		235 m
	集水柵		2 箇所
雑工	境界杭設置		10 箇所
仮設工	除雪工		1 式

2. 安全対策について

1) 高圧線（6000V）接触・切断による感電災害防止対策

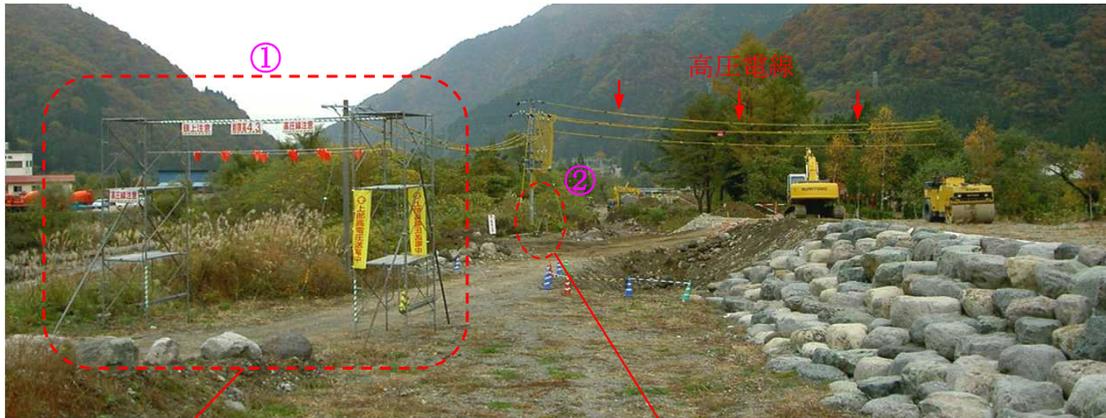
現場内には、高圧線（600V）があり、これの接触・切断による感電災害の危険が想定されました。



- ①. 現場出入りに高さ制限を設置し、現場内に高さの制限がある事又、自分の高さがこれに対して安全かを確認出来るようにした。
- ②. 作業手順作成時及び、新規入場者教育時に重機オペ・作業員が、出入り口の高さ制限だけでは「うっかり。作業に夢中になって・・・」といった時に安全対

策としては不十分ではないか。という声があり、みんなで検討した結果、「高圧線に近づいたら警告するものがあつたら良いのではないか。」という意見から、高圧線警報器を設置した。これは、警報エリアに進入するとセンサーが感知し、警報（回転灯）が作動するものです。

このセンサーは、市販されている人感知式ライトを用いて、ライトの回線に回転灯の配線を割り込ませて作動するように工夫した物です。



① 〔高さ制限〕

② 〔高圧線エリア警報器〕



警報エリア内での作業は、警報器が常に作動するため、警報器を切り見張員を配置し、作業を行った。



〔土砂搬入時〕
警報器＋見張員



〔掘削・法面整形時〕
見張員配置



〔埋戻し時〕
見張員配置

2) オリジナルの注意看板・掲示物による安全意識の向上

- ・現場の状況に合った物を作成し、掲示することで作業員が自ら注目するようになり、より確実に周知できる。
- ・ラミネート加工をすることで屋外にも掲示できるため、市販品ではできない表現内容のものを作る事が出来る。

〔 現場事務所・休憩所前掲示物 〕



〔 現場掲示物 〕



〔 安全ポスター 〕



〔 作業所スローガン 〕



〔 注意看板 〕



〔 施工サイクル・災害防止重点目標・KY他 〕



3. おわりに

当工事は現在も施工中であり、今回行った安全対策はごく当然の対策とも言えますが、今後も安全に関心を持ちつつ、より良い改善策があれば現場に積極的に取り入れていきたいと思えます。

これからより厳しい気象条件の下での作業となりますが、『めざそう！ゼロ災。守ろう！地域の安全。』をスローガンに無事故・無災害で竣工できるよう全員で安全作業に努めていきたいと思えます。